

有機農法を支援する志は創業から変わらない 株式会社アフラス認証センター

取材先 株式会社アフラス認証センター

認証本部有機認証部長・主任監査員・検査員・渡邊義明氏

アフラス認証センターは農業に特化した小規模集団。ISO 14001の審査業務に加えて、独自の認定システムを持っている。マスコミでも話題となった「鴨川自然王国」を起源に持つ異色の審査機関だ。

「鴨川自然王国」が生みの親

株式会社アフラス認証センターの設立は他の認証機関とはやや違った経緯を持つ。アフラス認証センターの源流は、歌手・加藤登紀子氏の夫・故藤本敏夫氏(2002年没)の開いた農事組合法人「鴨川自然王国」にある。

1983年、1976年設立の「大地を守る会」代表を辞めた藤本氏は千葉県鴨川市に、平飼の養鶏場を作った。「鴨川自然王国」はマスコミでも大きく取り上げられ、話題となった。その後、藤本氏は糖尿病で東京に戻ると、農業関係者や大手流通業者などから、有機農業や有機農産物の販売について相談を受けるようになる。いわゆる「藤本詣」だ。「株式会社自然王国」(1997年、株式会社農業食品監査システム=AFASに名称変更)が有機農業のコンサルタント業務を始めたきっかけだ。

2000年、ISOガイド65に対応して、認証部門を独立させ、株式会社アフラス認証センターを設立した。ISO 14001の認証と有機・特別栽培農産物の認定業務を始める。2004年に、AFASを吸収してコンサル部門を廃止する。現在、ISO 14001では6つの組織を認証している。

「うちは農業・食品専門です。有機農業の向上を目指していく中で、ISO 14001にぶつかり、環境審査・認証を始めました」

AFASの渡邊氏は1995年に入社。すぐにISO 14001の審査認定のために奔走した。小規模の組織にはまだ認定例が少ない状況の中で、各種勉強会などに出席

するなどして審査登録機関としての基礎を築いた。現在のISO 14001の認定範囲は、農業・林業・食料品・飲料・タバコ。

ISO 14001と並ぶ独自の認証システム

ISO 14001の審査を始める以前より、アフラスには独自の有機農業の認証システムが存在した。「現在は、ISO 14001のシステムを含めた包括的な農業環境管理システムとして、有機農法を実践する農業団体に活用してもらっています」と渡邊氏。「AFAS-SEQシステム」の審査を受けている農業団体は現在10、有機認証等関連システムの認証は191に上る。

「AFAS-SEQシステム」は農業生産・加工食品の分野で、有機農産物・特別栽培農産物の認証に求められる「生産工程管理」という経営管理システムを導入するためのツールです。農産物や加工食品の全プロセスを体系的に管理し、記録するシステム。全プロセスをチェックすることで、認証のドータルコストを削減できます。AFAS-SEQシステムが目指すものは、農業のSEQつまり安全(Safety)、環境(Environment)、品質(Quality)を高品位に保つためのシステムです。日本の農家は記録や管理に不慣れな場合が多いのです。AFAS-SEQシステムは、そのような農業生産者や加工業者でも、容易に着手できるのが特長です。しかも、国際規格に基づいたシステムですから、ISO 14001、ISO 9001、HACCPなどを取得していない場合でも、認証取得への適合をスムーズに進めることができ、農業経営の継続

的な改善が可能です(渡邊氏)

有機農産物の大手流通業者は7つ。大地を守る会・らでいっしゅぼーや・夢市場・ポラン・生活クラブ生活協同組合・首都圏コープ事業連合・グリーンコープ事業連合・東都生活協同組合。法規制に基づき、それぞれが独自の基準を持っている。農業生産者や加工業者は自己の自主基準を保持するだけでなく、こうした取引先の基準を守なくてはならない。それを支援するのがAFAS-SEQシステムだ。

さまざまな法規制や環境変化の中で、有機の農業生産者や加工業者にとって、90年代は混乱の時代だった。AFASはこれらの生産者や諸団体を支援して、現在に至っている。「自然王国」の時代から、ISO 14001が普及した現在に至るまで、AFASは有機農業を常に支援し続けてきた。ISO 14001の受審組織数こそ少ないが、有機農業の分野ではしっかりした基盤を誇る堅実企業だ。▼

(取材日:2005.9.8)



認証本部有機認証部長・主任監査員・検査員・渡邊義明氏